

1 目的

枕崎市大塚地区は60年の歴史を持つ電照ギクの産地です。当地区では、長年の連作による土壌のリン酸過剰の緩和と施肥労力の省力化が課題となっていました。そこで、平成30年に周年菊研究会で、リン酸を含まない基肥一発型の冬期専用肥料「一発きくどん有機入り」を開発しました。

しかし、令和2年度に研究会会員から、夏期の輪ギクでボリューム（重量）不足が見られるという声があがりました。そこで、夏期輪ギクのボリュームアップ対策をプロジェクトに位置づけて、夏期専用肥料の開発に取り組みました。

2 実施状況

(1) 大塚周年菊研究会活動内容

ア 当研究会員は現在20～40代までの若き生産者8名で、テーマを決めて毎月の定例会を行っています。



写真1 定例会の様子

(2) 新肥料の検討・試験の実施

ア 夏期専用肥料の開発に向けて、8月出し栽培時の肥料の効果について、シミュレーションを用いて成分の検討を行い、「一発きくどん有機入り」（以下、既存肥料）では生育後半にかけて肥料切れが発生することがわかりました。

そこで、新肥料の成分は、生育後半まで効果が続くように設定し、既存肥料との比較試験を行いました。

イ 肥効と輪ギクの生育の関係把握するため、6月出し、9月出し、11月出しの3作型に分けて試験を行った結果、9月出し栽培で夏ギクのボリュームアップ（階級アップ）が確認できました。



写真2 6月出し試験現地検討会

このことから、新肥料の使用時期は6月出し以降となる7月から11月出し栽培が適していると結論づけました。

ウ 夏期専用肥料名を検討した結果「夏きくどん」に決定し、令和4年春頃から販売が開始される予定です。

(4) 地域への成果波及

ア 当集落キク栽培農家の全体研修会でプロジェクトの報告を行いました。今後は、更なる花き栽培・経営の改善のために、省力化・高品質生産に努め、コロナ禍の販売状況下で有利な栽培体系が構築できるよう取り組んでいきます。



写真3 9月出し栽培試験結果

左：一発きくどん有機入り区

右：夏期サンプル肥料区

3 今後の課題、取り組み

(1) 輪ギク以外の他品目（スプレーギク等）での効果の検討

(2) 「夏きくどん」の活用及び波及

(3) 新たな産地課題解決に向けたプロジェクト活動の実施